

例題 5

次の計算を電卓を使っておこない、解を求めましょう。

(1) $8 - 2 \times 1 =$

(2) $35 - 4 \times 7 \div 2 =$

(3) $25 + 46 - 2 \times 13 =$

(4) $16 \div (12 - 8) =$

計算結果



(1) 2 \times 1 $=$

8 \equiv 6

(2) 4 \times 7 \div 2 $=$

35 \equiv 21

(3) 2 \times 13 $=$

46 \equiv (20)
+ 25 \equiv 45

(4) 12 $-$ 8 \div \div

16 \equiv 4

6 定数計算

同じ数を何度も足したり割ったりすることができます。例えば、

$$B+A=$$

$$C+A=$$

$$D+A=$$

$$E+A=$$

このような場合です。 A を何度も別の数に足しています。もちろん、毎回「 $+A$ 」を打ってもよいのですが、以下のように繰り返す数字が大きい場合、毎回同じ数字を打つのは時間がかかりますし、手数が増えるので誤入力の元になります。

$$12+5,568,132=$$

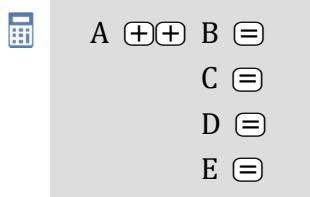
$$23+5,568,132=$$

$$34+5,568,132=$$

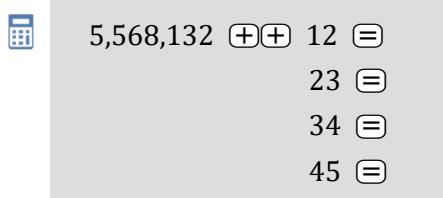
$$45+5,568,132=$$

そのようなときは、「定数計算」を使用します。繰り返し同じ計算をすることを、定数計算と言います。「定数計算」モードになると、電卓に「K」が表示されます。

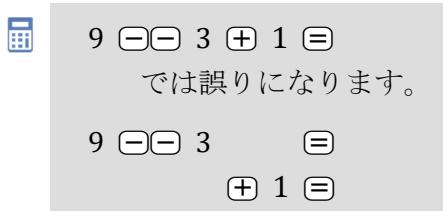
具体的には、



と打ちます。先ほどの計算であれば、



となります。以上の例は足し算の場合ですが、すべての四則計算で使うことができます。定数計算では、 $=$ などで結果を表示させる必要があることに注意してください。



例題 6

次の計算を電卓を使っておこない、解を求めましょう。

(1) $4+5=$

$7+5=$

$7+5+5=$

(2) $12-2=$

$48-2=$

$31-2=$

(3) $53 \times 53=$

$53 \times 2=$

$53 \times 2 \times 53=$

(4) $5 \div 5=$

$35 \div 5=$

$80 \div 5=$

計算結果



(1) $5 \oplus\oplus$

4	\equiv	9
7	\equiv	12
	\equiv	(12 に 5 $\oplus\oplus$) 17

(2) $2 \ominus\ominus$

12	\equiv	10
48	\equiv	46
31	\equiv	29

(3) $53 \otimes\otimes$

53	\equiv	2,809
2	\equiv	106
	\equiv	(106 に 53 $\otimes\otimes$) 5,618

(4) $5 \div\div$

5	\equiv	1
35	\equiv	7
80	\equiv	16